「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」

評 価 基 準

(品質・性能等の評価に関する事項)

令和7年版

評価対象材料名
細 目

ガ ラ ス
⑦ 複層ガラス

一般社団法人 公共建築協会

評価基準の説明 【ガラス ⑦複層ガラス】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章14節に規定する複層ガラスとする。

2. 引用している規定

- (1) 標仕 令和7年版
- (2) 日本産業規格
 - ・JIS R 3209 : 2023 「複層ガラス」

項目		品質・性能	備考										
材料	材料板ガラス	フロート板ガラス、磨き板ガラス、型板ガラス、網入板ガラス、線入板ガラス、合わせガラス、強化ガラス、熱線吸収板ガラス、熱線反射ガラス、倍強度ガラスのいずれかとし、当協会で評価を取得したもの、または JIS 適合表示のあるものとする。											
形状・寸法	厚さの許容差	<table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さの呼び (mm)</th> <th>許容差 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17 未満</td> <td>± 1.0</td> </tr> <tr> <td>17 以上 22 未満</td> <td>± 1.5</td> </tr> <tr> <td>22 以上 28 未満</td> <td>± 2.0</td> </tr> <tr> <td>28 以上</td> <td>± 2.5</td> </tr> </tbody> </table>	厚さの呼び (mm)	許容差 (mm)	17 未満	± 1.0	17 以上 22 未満	± 1.5	22 以上 28 未満	± 2.0	28 以上	± 2.5	
		厚さの呼び (mm)	許容差 (mm)										
		17 未満	± 1.0										
17 以上 22 未満		± 1.5											
22 以上 28 未満	± 2.0												
28 以上	± 2.5												
一辺の長さの許容差	<table border="1"> <thead> <tr> <th>一辺の長さ (mm)</th> <th>許容差 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1000 未満</td> <td>± 2</td> </tr> <tr> <td>1000 以上 2000 未満</td> <td>+ 2, - 3</td> </tr> <tr> <td>2000 以上</td> <td>± 3</td> </tr> </tbody> </table>	一辺の長さ (mm)	許容差 (mm)	1000 未満	± 2	1000 以上 2000 未満	+ 2, - 3	2000 以上	± 3				
	一辺の長さ (mm)	許容差 (mm)											
	1000 未満	± 2											
1000 以上 2000 未満	+ 2, - 3												
2000 以上	± 3												
板ずれの許容差	<table border="1"> <thead> <tr> <th>一辺の長さ (mm)</th> <th>許容差 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1000 以下</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>1000 を超え 2000 以下</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>2000 を超え 4000 以下</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>4000 超</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table>	一辺の長さ (mm)	許容差 (mm)	1000 以下	2.0	1000 を超え 2000 以下	3.0	2000 を超え 4000 以下	4.0	4000 超	6.0		
	一辺の長さ (mm)	許容差 (mm)											
	1000 以下	2.0											
	1000 を超え 2000 以下	3.0											
2000 を超え 4000 以下	4.0												
4000 超	6.0												
品質	外観	試験後、ガラスの内面に、透視に差し支えるような汚れ、封止材などの飛散がないこと。											
	露点	試験後、封入気体の露点は、-35℃未満であること。											
	封入気体のガス濃度 (封入気体が空気以外の場合)	試験後、2 枚の製品または試料を試験し、各封入気体のガス濃度平均値が、90% (体積分率) 以上かつ最小のガス濃度が 85% (体積分率) 以上であること。											
	加速耐久性	<p>封止の加速耐久性</p> <p>試験後、区分はⅢ類とし、6 枚の試料の封入気体の露点が、いずれも -30℃未満であること。</p> <p>封入気体のガス密閉性の加速耐久性 (封入気体として空気以外の気体を用いた場合)</p> <p>試験後、6 枚の試料のガス濃度平均値が 85% (体積分率) 以上かつ最小のガス濃度が 80% (体積分率) 以上であること。</p>											

項目		品質・性能		備考	
品質 (続き)	熱性能	断熱性	記号	熱貫流率 (W/ (m ² ・K)) 1)	
			T1	4.0 以下	
T2	2.7 以下				
T3	2.3 以下				
T4	1.9 以下				
T5	1.5 以下				
T6	1.1 以下				
注 1) : 熱貫流率は、鉛直使用の値とする。					
試験方法	日射取得性 日射遮蔽性	記号	日射熱取得率 2)		
		G	0.50 以上		
		S	0.49 以下		
注 2) : 日射取得率は、鉛直使用の値とする。					
<p>*サンプリングの方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 供試体は、JIS R 3209 の「8.1 供試体」による。ただし、製品の場合の中空層は、12mm とする。 2. 供試体の種類は、断熱性複層ガラスまたは日射取得性複層ガラスおよび日射遮蔽性複層ガラスのいずれかのうち 1 種類とする。 3. JIS に規定されていない場合の供試体の数は、各々 3 枚とする。 <p>*試験の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚さの測定は、JIS R 3209 の「8.9.2 厚さの測定」による。 2. 辺の長さの測定は、JIS R 3209 の「8.9.1 辺の長さの測定」による。 3. 板ずれの測定は、「8.9.3 板ずれの測定」による。 4. 外観試験は、JIS R 3209 の「8.2 外観試験」による。 5. 露点試験は、JIS R 3209 の「8.3 封入気体の露点試験」による。 6. 封入気体のガス濃度測定は、JIS R 3209 の「8.4 封入気体のガス濃度測定」による。 7. 封止の加速耐久性試験は、JIS R 3209 の「8.5 封止の加速耐久性試験」による。区分は、Ⅲ類とする。 8. 封入気体のガス密閉性の加速耐久性試験は、JIS R 3209 の「8.7 封入気体のガス密閉性の加速耐久性試験」による。 9. 断熱性試験は、JIS R 3209 の「8.8.1 断熱性試験」による。 10. 日射取得性および日射遮蔽性試験は、JIS R 3209 の「8.8.2 日射取得性及び日射遮蔽性試験」による。 					